

## 第1回下川町総合計画審議会（福祉・教育部会） 会議録

日 時 令和5年10月2日（火）

19:04～19:20

場 所 総合福祉センター「ハピネス」

### 福祉・教育部会

瀬川部会長、伊藤副部会長、麻生委員、品地委員、渡邊委員、山本委員

### 《あけぼの園》

遠藤園長、平間主幹、橋本主幹、長谷川係長

### ▽施策項目「高齢者福祉」

#### 事務事業名「あけぼの園運営事業」

町 : 内容説明

委員 : 去年、介護人材の確保が難しい状況だと言っていたが、今はどうなのか。

町 : 昨年から難しい状況が続いている。募集はしているが、問い合わせもない状況である。人材募集の周知を告知端末、ハローワークで行っているほか、今年は、近隣への周知として、山びこ学園と合同で名寄、風連へ新聞折り込みチラシを行ったが、現在も厳しい状況が続いている。

委員 : 経営上の課題は何か。

町 : 人材の確保が一番の課題である。入居者が安心したサービスを受けるために、適正な人員は必要であるが、人員不足で職員のストレスや負担が大きくなるため、人材の確保が必要と考えている。

委員 : どうしたら抜本的に良くなるのか。

町 : 介護だけでなく、他の分野でも人材が不足している。現状抜本的な具体策は示せないが、例えば、外国人の労働について受け入れている施設も相当増えているので、それも含めて、他分野と合わせて人材確保を検討していく必要がある。今後の人口の動静や福祉のニーズも踏まえて、将来的には

施設ニーズは減少に転じていく見通しなので、職員数に見合った入所定数なども考えていきながら見直していきたい。

委員 : 病院の場合、経営強化プランを策定して、病院の在り方を見直していくが、あけぼの園として中長期のプランはあるか

町 : まだ検討段階。今後、定員数も含めてこれから策定していきたい。

委員 : 町長が変わって理事者からの方針は出ているのか。

町 : 現状の運営状況も含めて、施設の経営についてプランが必要だということとで指示が出ている。

委員 : 待機者は何名いるのか。

町 : 28名（町内26名・町外2名）である。

委員 : コロナ禍では面会が制限されていたが、現在はどうか。

町 : 面会を再開して、施設内に入っただいて面会を行っている。行事については、今年は敬老会から家族参加の行事を実施したが、まだコロナが続いているのでご家族の飲食は無しで実施している。社会的な状況を見ながら今後考えていきたい。

委員 : コロナ禍で施設外の人と交流が無くなっていく中で、身体的機能の低下や精神面の影響があったと聞いたが下川ではどうか。

町 : 家族との面会が出来ないことで心身面での影響は感じている。パーティー越しの面会やオンライン面会を行った。

委員 : オンライン面会はどうだったのか。

町 : 顔を見て面会という部分では良いと思うが、やはり直接会ってみることを楽しみにしている方も多いので、行事なども中止となり心身面で影響を与えていたということを感じた。今回、行事を再開した際に、入所者の楽しそうな表情をみることで、実施できてよかったと感じている。

委員 : 入所者はロボット化の環境に慣れてきているのか。

町 : 生活の中で慣れてきている部分もあるが、大事なものは職員とのふれあいなので、意識して関わってきたい。